決算説明会資料

2010年9月期

2010年11月17日

代表取締役社長　今井　博文

富士製薬工業株式会社

FujiPharma

基本情報

（平成22年9月30日現在）

● 本店所在地	東京都千代田区紀尾井町3番19号
● 設立年月日	昭和40年4月1日
● 事業内容	医療用医薬品の製造及び販売
● 資本金	16億1,695万円
● 株主数	2,347名
● 支店	札幌、仙台、東京、富山、名古屋、大阪、福岡
● 工場	富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地
● 従業員	501名
● 役員	代表取締役社長　今井博文
	常務取締役　下堀穂積、広見　覚、徳永賢一
	取締役　上出豊幸、小沢伊弘（社外）、内田正行（社外）
	監査役　中村　稔（常勤）、三村藤明（社外）
	佐藤　明（社外）

FujiPharma

1. 決算概要

売上、利益共に過去最高を更新

売上原価率改善による利益拡大

（単位：百万円,%）

科目	09/9期		10/9期			
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前同比
売上高	17,198	100.0%	19,698	100.0%	2,499	114.5%
売上総利益	7,795	45.3%	9,079	46.1%	1,283	116.5%
販売費及び一般管理費	5,333	31.0%	5,846	29.7%	513	109.6%
（内、研究開発費）	918	5.3%	1,114	5.7%	195	121.3%
営業利益	2,462	14.3%	3,232	16.4%	770	131.3%
経常利益	2,477	14.4%	3,243	16.5%	765	130.9%
当期純利益	1,525	8.9%	1,944	9.9%	418	127.4%

FujiPharma

2. 中期計画の進捗状況

（1）新たな注射剤を軸に重点疾患領域を拡大する。

・2010年2月持田製薬株式会社とG-CSF製剤の共同開発契約を締結し、現在臨床第Ⅱ／Ⅲ相試験を実施中

（2）三極GMPモデルとなる高活性医薬品工場を完成する。

・2010年3月着工、2011年11月より稼働開始予定
・2010年9月期は12億円を投資

FujiPharma

3. 損益計算書分析

（単位：百万円、%）

科目	09/9期 通期実績		10/9期 通期実績		前期比 増減	
	金額	構成比	金額	構成比	額	率
売上高	**17,198**	**100.0%**	**19,698**	**100.0%**	**2,499**	**114.5%**
売上総利益	7,795	45.3%	9,079	46.1%	1,283	116.5%
粗利率	45.3%	－	46.1%	－	－	－
販売費及び一般管理費	5,333	31.0%	5,846	29.7%	513	109.6%
（内、研究開発費）	918	5.3%	1,114	5.7%	195	121.3%
営業利益	**2,462**	**14.3%**	**3,232**	**16.4%**	**770**	**131.3%**
営業外損益	15	0.1%	10	0.1%	▲ 4	68.5%
経常利益	**2,477**	**14.4%**	**3,243**	**16.5%**	**765**	**130.9%**
特別損益	▲ 8	▲0.0%	▲ 87	▲0.4%	▲ 78	1057.6%
税引前当期純利益	2,469	14.4%	3,156	16.0%	686	127.8%
税金等	943	5.5%	1,212	6.2%	268	128.5%
当期純利益	**1,525**	**8.9%**	**1,944**	**9.9%**	**418**	**127.4%**
設備投資額	1,372		1,759		387	128.3%
減価償却費	952		1,026		74	107.8%

主な増減要因

・売上総利益
売上増加及び薬価改訂による影響　7億円
原価改善　5億円

・研究開発費
G-CSF製剤臨床試験開始

FujiPharma

4. 薬効分類別売上実績

・DPC対象病院への深耕による診断用薬の売上増加

・長期処方によるルナベル配合錠（ホルモン剤）の売上増加

（単位：百万円、%）

区　分	09/9期 通期実績	10/9期 通期実績	前期比増減 額	前期比増減 率	（参考） 08/9期 売上高	（参考） 07/9期 売上高
診断用薬	6,983	8,494	1,510	121.6%	5,803	5,215
ホルモン剤	4,815	5,403	588	112.2%	3,973	3,360
循環器官用薬	1,161	1,155	▲ 5	99.5%	1,231	1,132
体外診断医薬品	1,124	999	▲ 125	88.9%	873	643
抗生物質及び化学療法剤	646	680	34	105.3%	634	638
泌尿・生殖器官系用薬	364	389	25	107.0%	332	304
外皮用薬	288	297	9	103.2%	329	398
その他	1,814	2,277	463	125.5%	1,758	1,557
合計	17,198	19,698	2,499	114.5%	14,937	13,250

FujiPharma

5. 施設区分別採用実績

・DPC対象病院への採用軒数拡大

・納入金額構成比も34.2%へ4.3ポイント増加

（単位：百万円、%）

施設区分	対象	09/9期				10/9期			
		施設数	採用軒数	カバー率	納入金額構成比	施設数	採用軒数	カバー率	納入金額構成比
DPC対象病院	03～06年対象	359	316	88.0%	14.9%	359	319	88.9%	14.1%
	08年追加対象	356	301	84.6%	9.8%	356	313	87.9%	8.9%
	09年追加対象	567	428	75.5%	5.2%	566	477	84.3%	11.2%
	10年追加対象	－	－	－	－	110	85	77.3%	0.6%
	計	1,282	1,045	81.5%	29.9%	1,391	1,194	85.8%	34.2%
その他		－	－	－	70.1%	－	－	－	65.8%
合計		－	－	－	100.0%	－	－	－	100.0%

FujiPharma

6. キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	09/9期 通期実績	10/9期 通期実績	前年同期比 増減
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー			
【抜粋】税引前当期純利益	2,469	3,156	686
減価償却費	952	1,026	74
売上債権の増加額	▲ 1,237	▲ 158	1,079
棚卸資産の増加額	▲ 648	▲ 946	▲ 298
仕入債務の増減額	864	▲ 213	▲ 1,078
法人税等の支払額	▲ 739	▲ 1,208	▲ 469
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,816	2,168	351
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー			
【抜粋】有形固定資産の取得等による支出	▲ 1,288	▲ 1,482	▲ 194
無形固定資産の取得等による支出	▲ 458	▲ 218	239
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,859	▲ 1,404	454
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー			
【抜粋】配当金の支払額	▲ 270	▲ 334	▲ 63
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 270	▲ 334	▲ 63
Ⅳ現金及び現金同等物の増加額	▲ 312	429	
Ⅴ現金及び現金同等物の期首残高	2,981	2,668	
Ⅵ現金及び現金同等物の期末残高	2,668	3,097	

安定した営業キャッシュ・フロー

有形固定資産支出のうち
第5製剤棟に係る支出
12億円

FujiPharma

7. 2011年9月期業績予想(1)

研究開発を真ん中にした事業運営体制に移行しつつ、売上利益共に過去最高の更新を目指す。

(単位:百万円,%)

項目	11/9期 通期	前期増減額	増減率	上半期	前年同期 増減額	増減率	下半期	前年同期 増減額	増減率
売上高	22,457	2,758	114.0%	10,775	1,207	112.6%	11,682	1,550	115.3%
経常利益	3,471	227	107.0%	1,371	▲ 243	84.9%	2,100	471	128.9%
当期純利益	2,141	196	110.1%	845	▲ 126	87.0%	1,296	323	133.2%

ROE (当期利益)	11.5%
ROA (経常利益)	13.1%
EPS	166.36

(単位:百万円,%)

項目	11/9期 通期	前期増減額	増減率
設備投資額	3,245	1,485	184.5%
減価償却額	1,119	93	109.1%
研究開発費	2,086	971	187.2%

FujiPharma

7. 2011年9月期業績予想(2)

好調な市場環境を活かし診断用薬およびホルモン剤を中心とした売上拡大を図る。

(単位:百万円、%)

区分	11/9期 通期予想	前期比増減 額	前期比増減 率
診断用薬	9,824	1,330	115.7%
ホルモン剤	6,439	1,035	119.2%
循環器官用薬	1,165	9	100.8%
体外診断医薬品	950	▲ 49	95.1%
抗生物質及び化学療法剤	857	176	125.9%
外皮用薬	286	▲ 11	96.2%
泌尿・生殖器官系用薬	377	▲ 12	96.8%
その他	2,557	280	112.3%
合計	22,457	2,759	114.0%

FujiPharma

❑重点課題

設立50年を睨んだ既存のコア事業価値の引上げと
次の時代に向けた新規の事業機会と展開の具体化

▽中経テーマ

『GOOD TO GREAT』
＝永続的な成長企業へ＝

- ●GOODな『今井商店』から　GREATな『Fuji Pharma』へ
- ●GOODな『仲良しクラブ』から　GREATな『プロ組織』へ
- ●GOODな『まじめ社員』から　GREATな『戦略スタッフ』へ

FujiPharma

❑めざす方向

❶ 新たな注射剤を軸に重点疾患領域を拡大する

がんの診断／造影剤から、がんの治療／抗がん剤、造血剤、制吐剤、麻薬などへ対象領域を拡大、バイオ後続品、DDS抗がん剤、抗菌剤、D&D抗がん剤など注射剤の大型製剤を軸に、急性期医療における競争優位な成長基盤を構築

FujiPharma

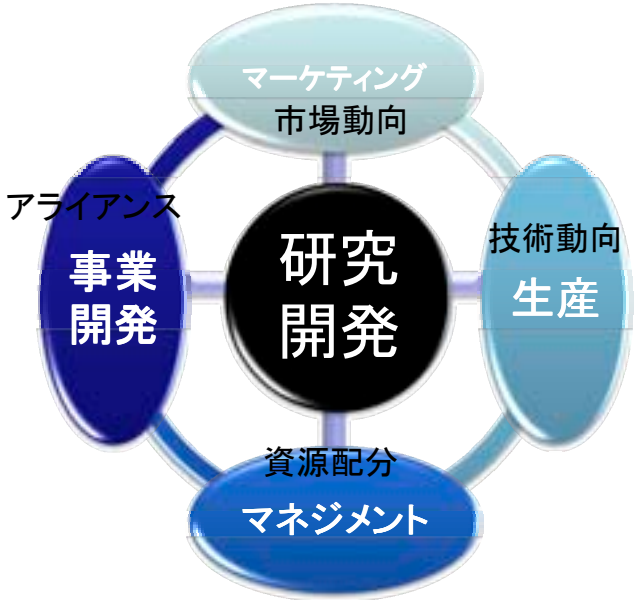
❷ 女性医療のリーディング・カンパニーを確立する

主力の不妊症をはじめ、月経困難症、子宮内膜症、更年期障害、避妊などへ継続的に新たな女性ホルモン剤を投入、産婦人科ホルモン療法のサポートを強化、GE薬と新薬の相乗的成長モデルを構築

FujiPharma

❸ 研究開発を真ん中にした事業運営体制を構築する

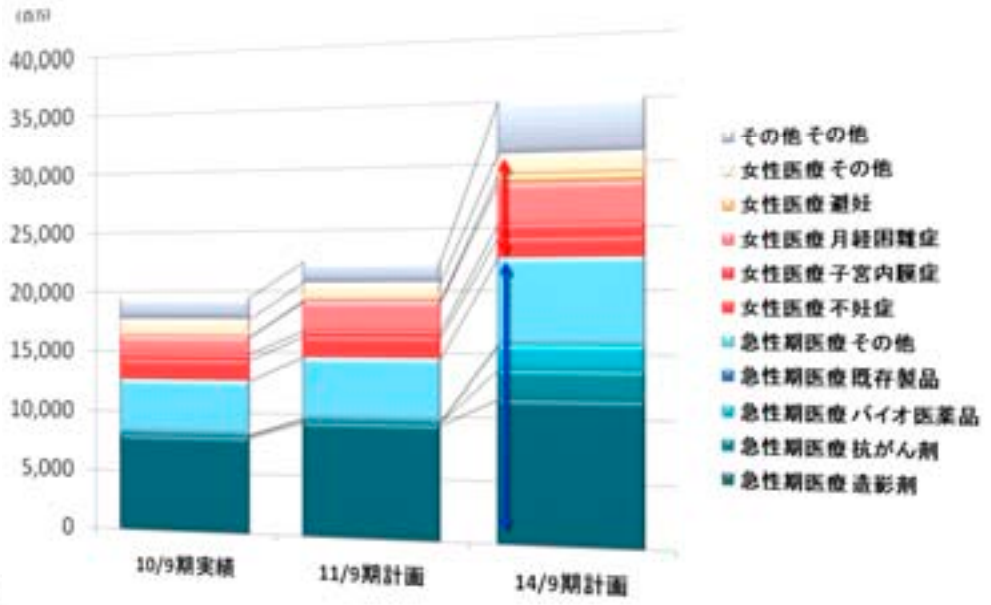
研究開発を軸に社内外リソースが一体化、市場調査、製剤工夫、開発マネジメント
アライアンスなどの共有、協業の体制を強化、最適な事業運営モデルを構築
戦略パイプラインの充実、高付加価値化、事業価値を向上



FujiPharma

❑販売計画

女性医療における女性ホルモン剤/低用量ピル、急性期医療における抗がん剤
造血剤などの専門機能の拡充、マーケティング組織、支援システムの刷新
流通戦略の強化など、戦略疾患領域におけるマーケティング活動の質×量の
引上げ、売上高を倍増



FujiPharma

❑新たなシンボル

新たな発展のシンボルとなる大規模な注射剤工場棟を新設、先ずは既存の
2倍の能力の大型樹脂シリンジ製剤製造ラインと、最も高度な無菌保証レベル
（無菌操作アイソレーター）の硝子シリンジ製剤製造ラインを立上げ
注射剤メーカーとしての更なる差別化と高度化と最大化を目指す

FujiPharma

❑14/9期事業目標

当社の14/9期（50期）の姿：
新たな時代へ向けて大型新製品の開発パイプラインを組立てている
新注射剤工場棟が本稼働している、次期の大型設備投資が決定している
コア領域のドクターより一番の支持を得ている、がん関連用剤を立ち上げている
次世代リーダー育成プログラムが本稼働している、海外へ製剤を供給している
など

（百万円）	10/9期 実績	11/9期 計画	14/9期 計画
売上高	19,698	22,457	35,000
経常利益	3,243	3,471	7,000
当期純利益	1,944	2,141	4,300
ROA（総資産経常利益率）	13.1%	13.1%	＞15%
研究開発費	1,114	2,086	3,000
設備投資額	1,759	3,245	9,600（10/9-14/9期合計）
配当性向	19.9%	20.4%	30%

FujiPharma

FujiPharma

本資料に記載の業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

本日は、お忙しい中、ご来場頂き、誠にありがとうございました。

富士製薬工業株式会社

＜お問い合わせ先＞
管理部　経営管理課　　小林　伸吉
東京都千代田区紀尾井町3番19号
TEL　：　03－3556－3344
FAX　：　03－3556－4455
Email：　shinkichi_kobayashi@fujipharma.jp
URL　：　http://www.fujipharma.jp

MEMO